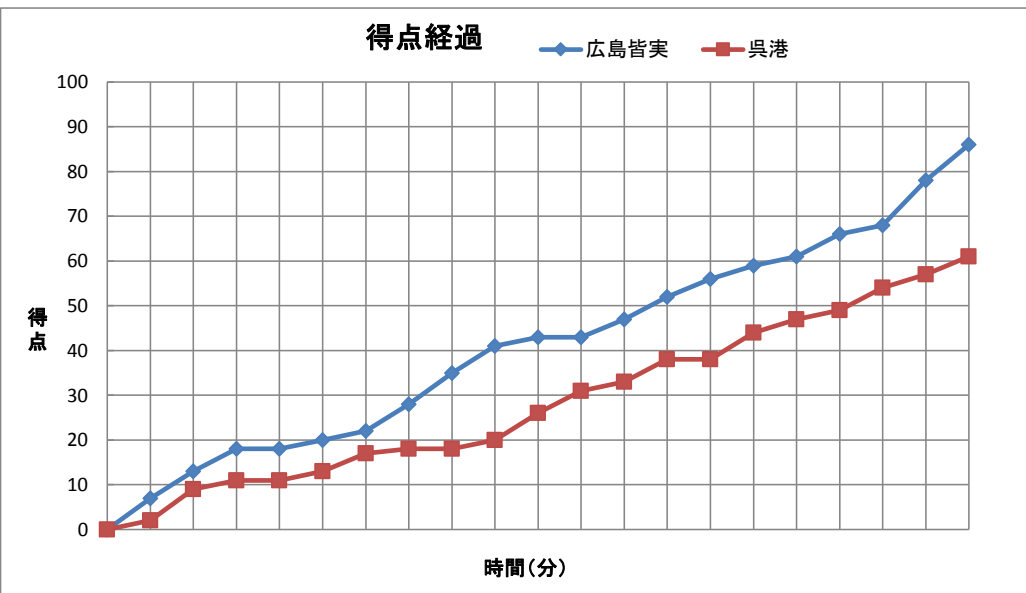


個人トータル表

男子														平成30年10月21日 11:00 開始			
決勝														マエダハウジング東区スポーツセンター 0			
◎																	
広島皆実 86														61 呉港			
(広島県)														(広島県)			
		20		1st		13											
		23		2nd		13											
		16		3rd		18											
		27		4th		17											
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則				
* 4	山口 由稀	17	0	7	3	3	* 4	佐々木 龍星	6	0	3	0	1				
* 5	石原 奏志	18	4	3	0	0	* 5	塩見 晃希	4	0	2	0	4				
6	西村 浩志郎	2	0	1	0	1	6	世羅 拓夢	-	-	-	-	-				
7	大谷 祐輝	0	0	0	0	0	7	森下 裕太	-	-	-	-	-				
8	川島 渉平	0	0	0	0	0	8	土佐 飛翔	-	-	-	-	-				
9	西村 聡一郎	1	0	0	1	0	9	大野 泰雅	-	-	-	-	-				
* 10	三谷 桂司朗	28	1	10	5	2	10	山之口 哲平	-	-	-	-	-				
11	江尻 翔吾	0	0	0	0	0	11	高家 航星	7	0	3	1	2				
* 12	阿部 優月	2	0	1	0	2	12	有井 聖真	-	-	-	-	-				
13	東 蒼一朗	-	-	-	-	-	13	楠 晃輔	-	-	-	-	-				
14	國安 駿平	0	0	0	0	0	14	高田 怜治	-	-	-	-	-				
15	林 龍之介	-	-	-	-	-	15	迎 樹	-	-	-	-	-				
16	升田 慎也	-	-	-	-	-	* 16	國藤 雅弥	11	0	5	1	2				
17	直野 圭吾	2	0	1	0	0	* 17	阿井 勝海	13	0	5	3	4				
* 18	大福谷 和馬	16	0	8	0	1	* 18	共田 賢人	20	4	4	0	1				
コーチ	藤井 貴康					0	コーチ	加藤 博					0				
Aコーチ	東 昌隆						Aコーチ	加藤 洋子									
合計		86	5	22	9	8	合計		61	0	8	1	7				
主審: 大谷英紀																	
副審: 竹内智己																	
副審: 森原隆																	



CTO	1・2P		3・4P		OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	:	:	33:09	:	:	:	:	:
TeamB	6:20	15:25	20:45	34:57	:	:	:	:

〔戦評〕
 モルテンカップ男子決勝は、広島皆実対呉港の高校総体決勝と同カードとなった。両チームともに国体選抜選手を多く抱え、互いの手の内を知るなかでの対戦。どちらが東京への切符をつかむか。
 1Q: 広島皆実④⑤⑩⑫⑬、呉港④⑤⑩⑫⑬、広島皆実はハーフコートマンツーマン、呉港は3-2ゾーンでゲームスタート。広島皆実ハイポスのスペースをうまく使い、⑩が得点を重ねる。呉港は④⑤のインサイドを基点にしながら内外がバランスよく加点する。広島皆実⑤がこのクォーター2本目の3Pを決めたところで呉港タイムアウト。このタイムアウトが広島皆実のリズムを崩し広島皆実はこちらから3分間ノーゴール。その後互いに守りあう展開となり第1Qは20-13と広島皆実がリードして終了する。
 2Q: 呉港は2-1-2ゾーンにディフェンスを変更。しかし、広島皆実④のバスケットカウントや⑩⑫のリバウンドショット、⑤の連続3Pで一気に得点を積み上げる。呉港は⑩⑫のドライブから得点を狙うもシュートを決めきれず苦しい展開が続く。呉港のゾーンディフェンスを内外効果的に攻略した広島皆実が43-26とリードを拡げて前半終了。
 3Q: 呉港は1-3-1ゾーンにディフェンスを変更、広島皆実の足を止めることに成功する。攻めでは呉港⑩の連続3P、⑫のドライブで得点し、残り5分には48-38の10点差にまで追いつける。ここから広島皆実④⑩が頑張り得点。59-44と広島皆実が流れを引き戻して勝負は第4Qへ。
 4Q: 広島皆実⑩のリバウンドショット、3P、バスケットカウントで得点、呉港は⑩がこのゲーム4本目の3Pを決め反撃する。呉港は広島皆実ゴールを再三にわたり脅かすものの、広島皆実の好守に阻まれ得点が伸びない。その間広島皆実④がうまくゲームをコントロールしながら得点し、リードを拡げる。呉港は⑫を中心に果敢に1対1を仕掛け、最後まで攻め続けるが惜しくもタイムアップ。広島皆実が86-61で勝利を収めた。
 敗れたものの、呉港はゾーンディフェンスを使い分け、高い能力と個人技を活かした速い展開からの1対1で、あわやという場面を幾度もつくり出した。呉港のゴールへの執念は特筆に値する。
 互いのチームの特徴が存分に発揮された好ゲームのなかで、違いをつくったのは広島皆実⑩のリバウンドショットであった。5年連続でのウインターカップ出場となった広島皆実。高校バスケットの総決算といえるウインターカップでの活躍を期待したい。

戦評: 大瀬元貴 記録: 広島なぎさ